

Title	M&A後の知識移転に対する一考察：促進要因と阻害要因の研究
Sub Title	
Author	村田, 崇(Murata, Takashi) 浅川, 和宏(Asakawa, Kazuhiro)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2010
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2010年度経営学 第2590号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002010-2590

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究テーマ

M&A 後の知識移転に対する一考察 —促進要因と阻害要因の研究—

内容の要旨

本研究は M&A 後の知識移転について、その促進 / 阻害要因の確認を中心に研究を実施したものである。

a) 研究の重要性

近年の M&A を巡る状況を振り返ると 2 つの特徴が挙げられる。1 点目は量的な増加傾向であり、2 点目は依然とした成功率の低さである。このような「増加するが成功しない」現状においては、M&A を成功に導く糸口の発見が実務においては求められていると考えられる。

また、M&A 後の企業を巡る研究を俯瞰した時、財務的な側面から（例えば、M&A 後の企業業績の推移など）考察を行った研究がこれまで大勢を占めて来た。その為、財務的側面以外に焦点を当て M&A について考察する本論文は、有意義な研究テーマであると考ええる。

以上の通り、M&A を巡る現状や先行研究の傾向を鑑みた時、知識移転を M&A 後の成果として設定し促進 / 阻害要因を確認する本論文は、非常に重要な研究であると考ええる。

b) 手法

本研究は、同一の主題に対してアンケート調査による定量分析（第 1 章）、インタビュー調査による定性分析（第 2 章）、という 2 つのアプローチを採用した。その為、より複眼的な、より実務に耐え得る研究になったと考ええる。

c) 成果

研究成果として、本論文における重要な発見とその意義について簡潔に述べる。第 1 章における発見としては、知識に対する立場（受け手であるか、送り手であるか）により重視される要因が明確に異なる事、日本企業の知識移転における態度、の 2 点を明示する。また、第 2 章における発見としては、日本企業に欠ける機能の存在、その奥にある企業の意識、の

2 点を明示する。そして、全体を通じた発見としては、第 3 章において企業内における「所属意識」こそが統合後の知識移転を阻む根本的な要因であることを明示する。

これらの発見は現状の課題が具体的に明示されたものであり、そのため今後の M&A の成功に向けて多くの示唆を与え得ると考える。